

ニュースレター

【自然史資料館の臨時休館について】

新型コロナウイルスによる感染症の拡大を防ぐため、4月11日から5月6日まで臨時休館し、この間の当館主催の行事等は、延期または中止します。今後の情報は、当館ホームページをご覧ください。

新型コロナウイルスに負けないぞ！

ごあいさつ

自然史資料館をみんなでつくろう

自然史資料館は、いしかわの自然（動物、植物、地学など）を学び・体験し・未来に伝える参加型ミュージアムです。2006年に開館して15年目に入りましたが、残念ながら、まだ県民にあまり知られておらず、来館者も多くありません。私は、どうすれば当館を、地域の自然や環境に関心をもつ県民の皆さん（子どもから大人、シニアまで）が、何度も来なくなる人気スポットにできるのか？ 観察、実験、野外調査などをもっと工夫できないか？ 思いをめぐらせてきました。当館は、私とスタッフ10名（学芸員3名、美術職員1名、県教委から派遣された教員3名、事務スタッフ3名）だけの小さなミュージアムですが、みなさまのニーズにそった、「みんなでつくる、身近な自然史資料館」を目指しています。このニュースレターでは、目玉イベントの予告、館内の注目スポット、スタッフの横顔などを紹介します。そのほか、ホームページやフェイスブック等を使った交流も予定しています。

私は、3年前に館長になり、いくつか新企画を立ち上げました。たとえば、当館の総力をあげた「オープンミュージアム」の実施、石川県主催の環境イベントへの参加、他の県立機関（森林公園など）や、東京大学総合博物館との共催事業、在野の研究者を招待しての特別企画展などです。このニュースレターには、その報告と今後の予定をのせました。ご提案、ご支援をいただければさいわいです。

（館長 中村 浩二）

【プロフィール】

1947年神戸市生まれ。金沢大学名誉教授。金沢生活が40年をこえました。昆虫の生態調査（日本とインドネシアなどの熱帯）、里山里海の保全・活用、若手人材の育成（能登とフィリピンのイフガオ棚田）にとりくんでいます。



石川県の
調査・学び・体験
自然



みんなでつくる
自然史資料館



参加型
ミュージアム

植物分野 今年、「いしかわレッドデータブック」と「生物多様性」を考える

今年が種の絶滅をゼロにする目標の年だと知っていますか？2010年に名古屋で開催された、生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）で決まった20の「愛知目標」の一つに、「2020年までに既知の絶滅危惧種の絶滅を防止しよう」というものがあります。この節目の年に、石川県では絶滅危惧種をリストアップした「いしかわレッドデータブック」（第3版）が発行されます。そのとりまとめに、自然史資料館は大きな役割を果たしています。中村館長、私、古池博さん（当館指定管理者 前理事長）が、いしかわレッドデータブック策定委員をつとめており、当館に所蔵されている動植物標本が役立っています。石川県の動植物の調査研究は、当館の主要な業務のひとつなのです。

レッドデータブックは、どんな生き物が絶滅するおそれがあるのかについてまとめた本です。その中の絶滅危惧種のリストは、生物保護のための重要な基礎データとなります。開催中の企画展「いしかわのレッドデータ植物」では、石川県の植物編レッドデータブックを紹介しています。石川県の絶滅危惧植物は、2020年の最新版レッドデータブックでは、2000年と2010年よりも増えています。現代では、森を開発したり、工事をしたりするなどの人間の活動によって、多くの生き物が絶滅しそうになっています。近年は、人間の働きかけが低下したことが原因の絶滅リスクも高まっています。

石川県での状況悪化が示しているように、絶滅ゼロ目標のクリアはならず、生物多様性の損失を止めるための愛知目標は、全体として達成には程遠いものです。深刻な問題ですが、クリアならずのままゲームセットにはできません。愛知目標は、2050年までの大きな目標「自然と共生する」に繋がらないといけません。最新のいしかわレッドデータブックが刊行される今年、生物多様性について考えてみませんか。

（副館長 中野 真理子）

【プロフィール】
1974年石川県生まれ。金沢大学の植物自然史研究室や京大大学生態学研究センターで植物の分類や生活史の研究を行ってきました。学芸員の大事なお仕事「ハーバリウムワーク（植物標本庫に関する仕事）」にも精力的にとりくんできました。地域に役立つ自然史資料館をつくってみたいです。

「いしかわレッドデータブック」と「生物多様性」を知るための企画展

- いしかわのレッドデータ植物
2020年 2月15日（土）～ 6月21日（日）
- いしかわの生物多様性とレッドデータブック
2020年 9月19日（土）～ 12月27日（日）

topic

特別展「アリと仲よし、アリヅカムシの不思議な世界」
+
トークショー「すごいじいー！昆虫の世界」

このたび自然史資料館の招待で、特別展「アリと仲よし、アリヅカムシの不思議な世界」（昨年10月26日～11月24日）を行いました。アリヅカムシとは、アリの巣（アリヅカ）のなかで、一生をおくる魅力的な小甲虫（体長1～3ミリ）です。このムシの生活は謎に満ちており、まっ暗なアリの巣の中で、アリに食べられないのか？何を食べているのか？なぜアリはアリヅカムシを追い出さないのか？などなど。

会期中の11月2日、同館でトークショー「すごいじいー！昆虫の世界～昆虫の達人たちが語る石川の自然と昆虫、子どもたちへのメッセージ」も開催され、中村館長の司会で、富沢草さん（石川むしの会）、石川卓弥さん（石川県ふれあい昆虫館）、江崎功二郎さん（石川県林業試験場）、野村進也さん（石川県森林公園）、嶋田敬介さん（自然史資料館）といっしょに石川のムシを語りあいました。

（投稿 中田 勝之さん）

【プロフィール】
1970年金沢市生まれ。石川県立農業短期大学卒業、金沢大学自然科学修士課程修了。農水省に勤務のかたわら、日本昆虫学会・日本甲虫学会・石川むしの会の会員として、約30年間、アリヅカムシを研究中。



アリヅカムシ



中田 勝之さん



トークショー

これまでは、当館は外部との連携事業がすくなかったのですが、最近では、石川県主催の環境イベントのうち「MISIAの里山ミュージアム」(石川県森林公園)、「いしかわの里山里海展」(産業展示館)、「マナビィフェア in 本多の森」(生涯学習センター)や民間の「第2回いしかわ海洋教育フォーラム」(金沢海みらい図書館)などに参加しています。また、石川県森林公園との共催で「めざせ! 里山ネイチャーマイスター」を昨年度から開始しました(年間6回、フィールドワークと室内観察を実施)。また、モバイル展示「四高学術史モバイルミュージアム」を、東京大学総合研究博物館インターメディアテック(東京駅前にあります)において、昨年9月から共催実施中です。

topic

主催：東京大学総合研究博物館 共催：金沢大学資料館+石川県立自然史資料館

特別
展示

「アートか、サイエンスか —— 知られざる四高遺産から」

当館は、旧制四高(金沢大学の主たる前身校)由来の現存する物理実験機器約900点のうち、700点余りをを所蔵しています。昨年2月16日～5月12日に開催された本展では、そのうち40点を展示しました。

ところで皆さんは、物理実験機器と聞くと、クールなフォルムをイメージしませんか? 本展はそんなイメージを覆して、機能性に加えて審美的視点からも追及された造形美が、時を経てより一層深まり、観る者を古き時代に誘うかのようでした。出品された機器の一部を、「モバイルミュージアム」として引き続き展示しています(2021年3月末までの予定)。

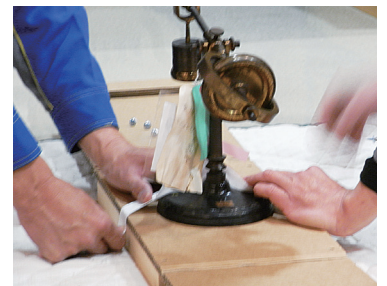
東京においでの際は、当館常設展示の物理機器とは違った世界観が楽しめる「旧制四高物理実験機器」を、是非ご高覧ください。

(美術職員 高内 香)



【会場風景】

映し出された陰影も美しい



【梱包作業】

機器の繊細さや経年劣化に注意しながらの梱包作業

学校・地域支援

誰!?

団体係のきまぐれコラム

変なおじさん現る

講座と共にふりかえる 我がコスプレの歴史



「あなたがうれしいと私もうれしい」美しい言葉です。資料館は来館する皆様あってこそ場所ですから、楽しんでいただけることが第一。「来館者が楽しいと職員も楽しい」の気持ちを大切にしたいものです。

ところで、当館にはときどき変なおじさんが現れます。団体見学や講座の時に多いのですが、これは職員のコスプレ。「私が楽しんで、来館者も無理やり楽しませよう」という目論見です。小学生までの前にしか現れないので、ご心配なく。①②は園児に企画展漬物の自然史を解説する「漬物じいさん」。③はミニ展示のための「漫画の泥棒」。④は園児に講座をする「わしは博士じゃ」。⑤は「ブラックさかなクン」。⑥は講座の前振りでの「イカ大王さま」。気が向いたら、また出てきます。



イカ大王
さま

活動

Open Museum

「オープンミュージアム」の開催

自然史資料館の活動を皆さまに知っていただくために、昨年5月18日に特別企画「オープンミュージアム」を開催しました。当館が、地域のニーズにこたえ、身近なものになるように、館員それぞれが、子ども（親子連れ）からシニアまで、みんなが楽しめる特別企画を用意しました。約280名が来場されました。

<https://openmuse518.peatix.com/>

第2回として「オープンミュージアム2020」を企画し、準備会合「イベント」を昨年12月22日に開催しました。今回は、5月16・17日の二日間をかけて実施の予定ですが、新型コロナウイルスの拡大により、中止・延期になるかもしれません。予定が確定しましたら、お知らせします。

大人にも
人気だった工作



バックヤードツアー



銚子太鼓の演奏



学芸員
イチ押し收藏品

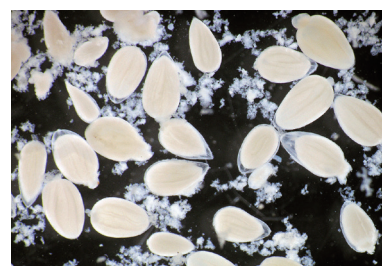
動物分野 「ダイオウイカの卵」

海の巨大生物と言えば、何を思い浮かべるでしょうか？ シロナガスクジラ？ リュウグウノツカイ？ おそらく最も有名で、多くの人々の興味を引いてやまないのは、ダイオウイカではないでしょうか？

ダイオウイカは、無脊椎動物の中では最大級の種類です。しかし、その卵は思いのほか小さく、わずか1mmほどしかありません。この小さな卵から生まれた稚イカが、最終的には全長10mを超える巨大な成体にまで成長するという事実は、私たちに生命の神秘を感じさせてくれます。

当館には、2016年に能登半島の海岸に漂着したダイオウイカの卵の標本が、全身や口器・内臓などの標本とともに展示されています。卵の展示は全国的に見ても非常に珍しく、標本自体も学術的に貴重なものです。これだけのダイオウイカの標本が揃って展示されているのは、石川県内では当館だけです。是非一度ご覧ください。

(学芸員 嶋田 敬介)



顕微鏡で観察したダイオウイカの卵



来館者に人気の
撮影スポットです

展示の様子（当館2F）

お知らせ

展示あり！

自由研究タイムあり！

野外体験あり！

おもしろ工作と実験あり！

夏休み
特別企画

すごいじー！夏休みの自然史資料館
～展示・学習・ネイチャー体験～

期間：2020年7月11日⑤～8月31日⑤

場所：石川県立自然史資料館 2F企画展示室

子どもからシニアまで、夏休みを楽しみ、学ぶための「すごいじー！」プログラムを提供します。館員が夏休みの自由研究をお手伝いします。

※詳細はHPをご覧ください

利用案内

開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 / 12月29日～1月3日

入館料 / 無料
駐車場 / 完備 (大型バス駐車可)

交通案内

《バスをご利用の場合》
金沢駅東口バスターミナル

- 6番乗り場
『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘下車】
→徒歩約10分
- 7番乗り場
『12 湯涌温泉ゆき』または『12 北陸大学薬学部ゆき』または『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口下車】→徒歩約10分



石川県立自然史資料館

〒920-1147 石川県金沢市銚子町441

TEL: 076-229-3450 FAX: 076-229-3460 <https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>

